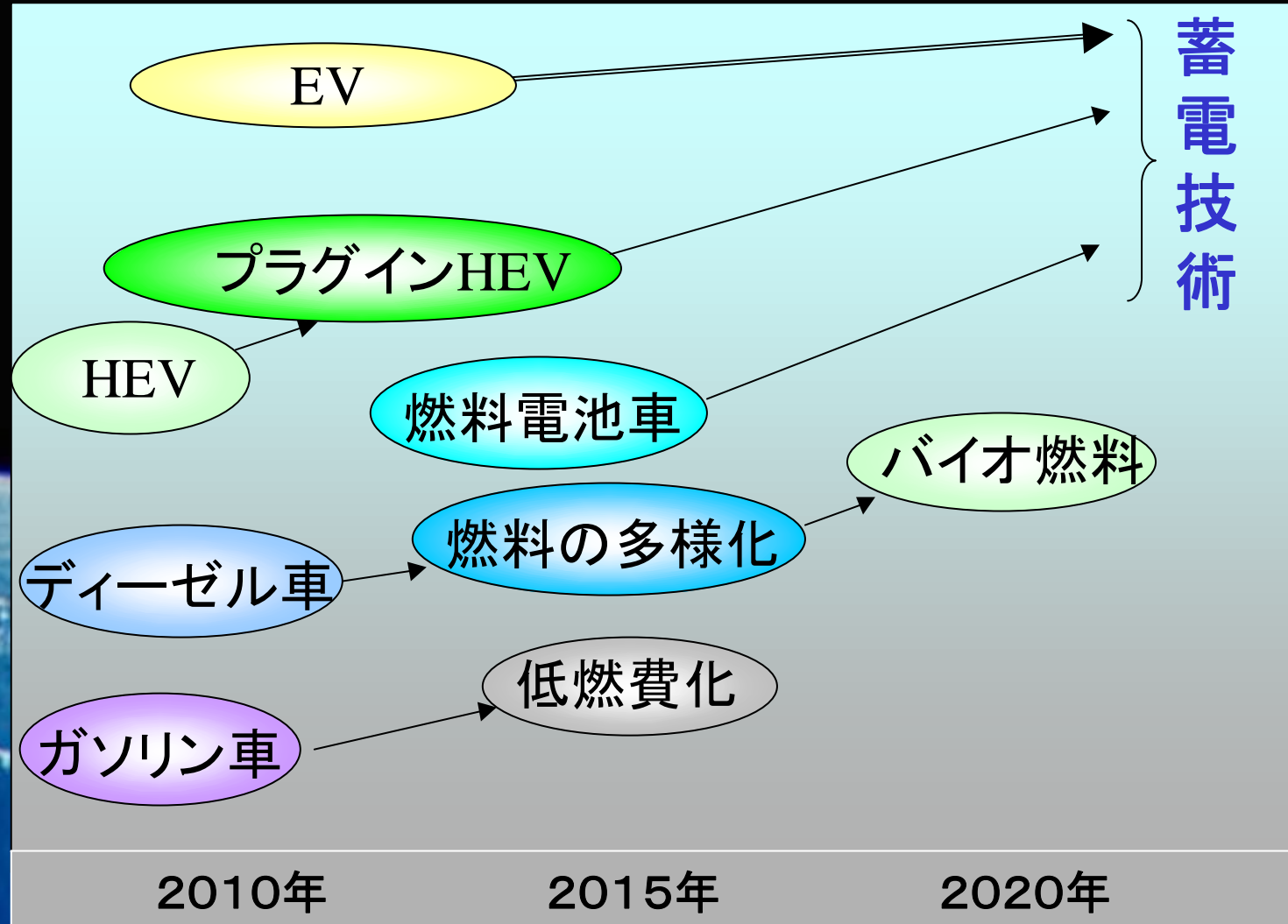
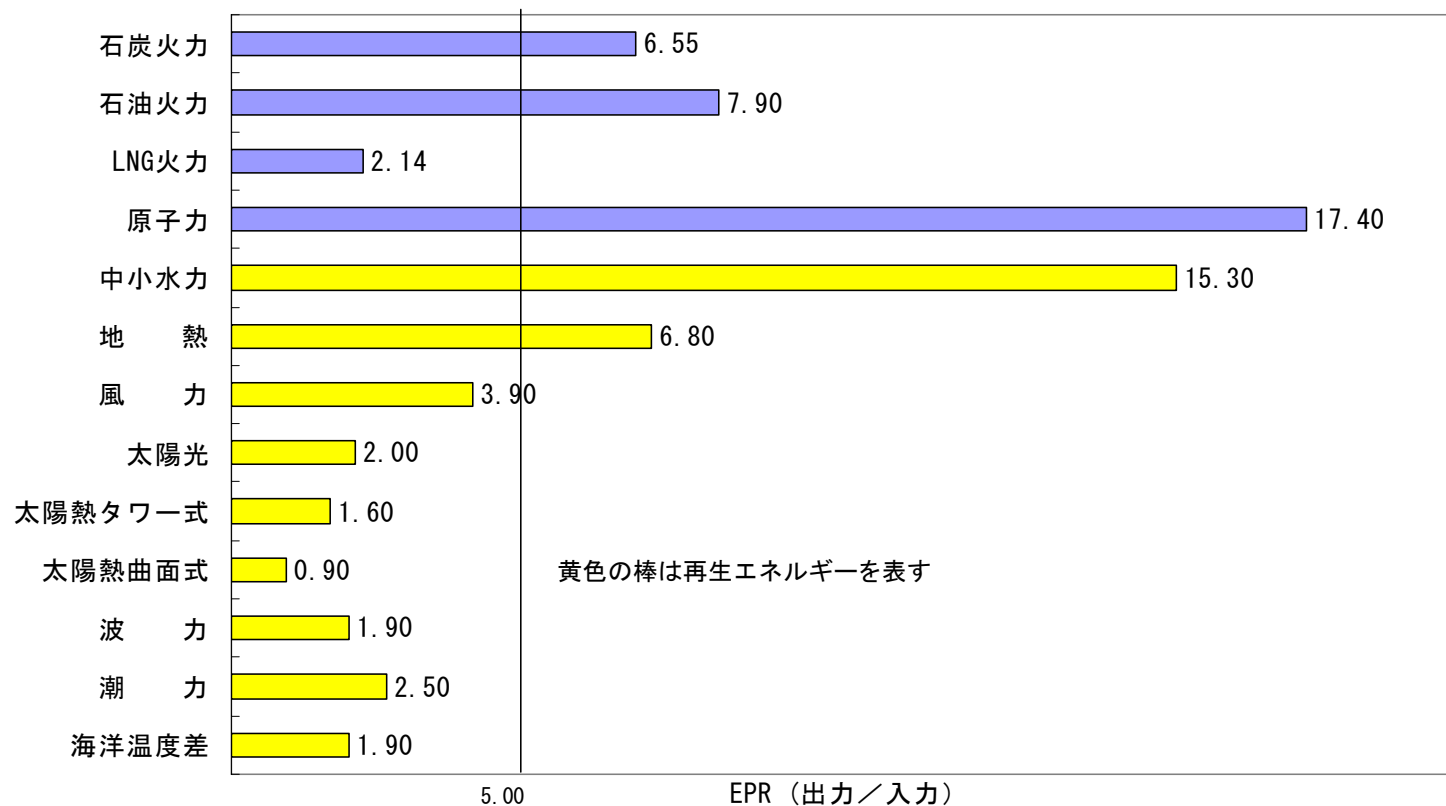


自動車における蓄電技術の必要性

CO2排出削減比率



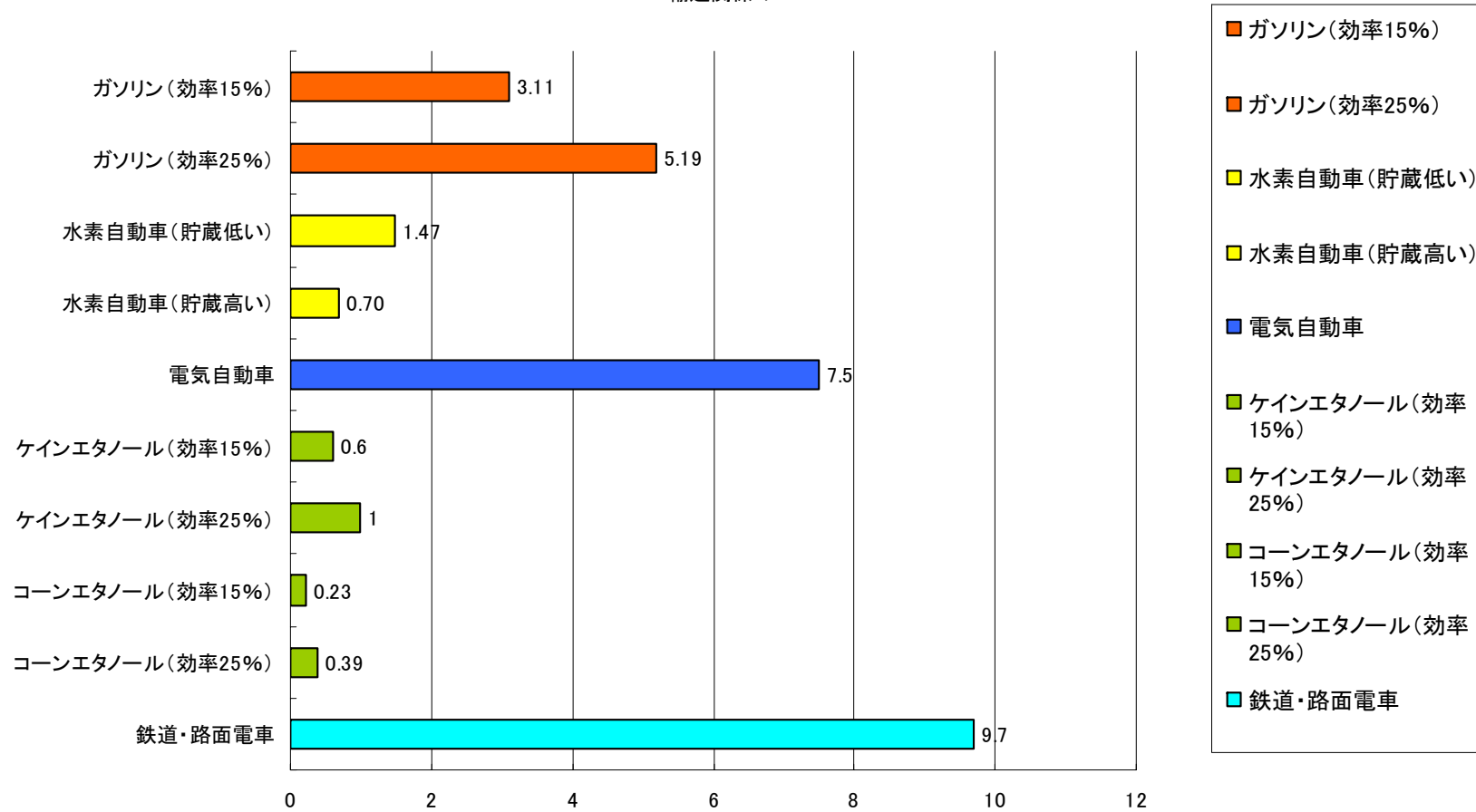


注)原子力では、ガス拡散と遠心を半分ずつにしている
 設備利用率は、石炭、石油、LNG、原子力は75%、水力45%、風力35%、
 太陽光15%、太陽熱15%

出典:天野 治(電中研)

図 電源別のエネルギー収支比(EPR)

輸送関係のEPR

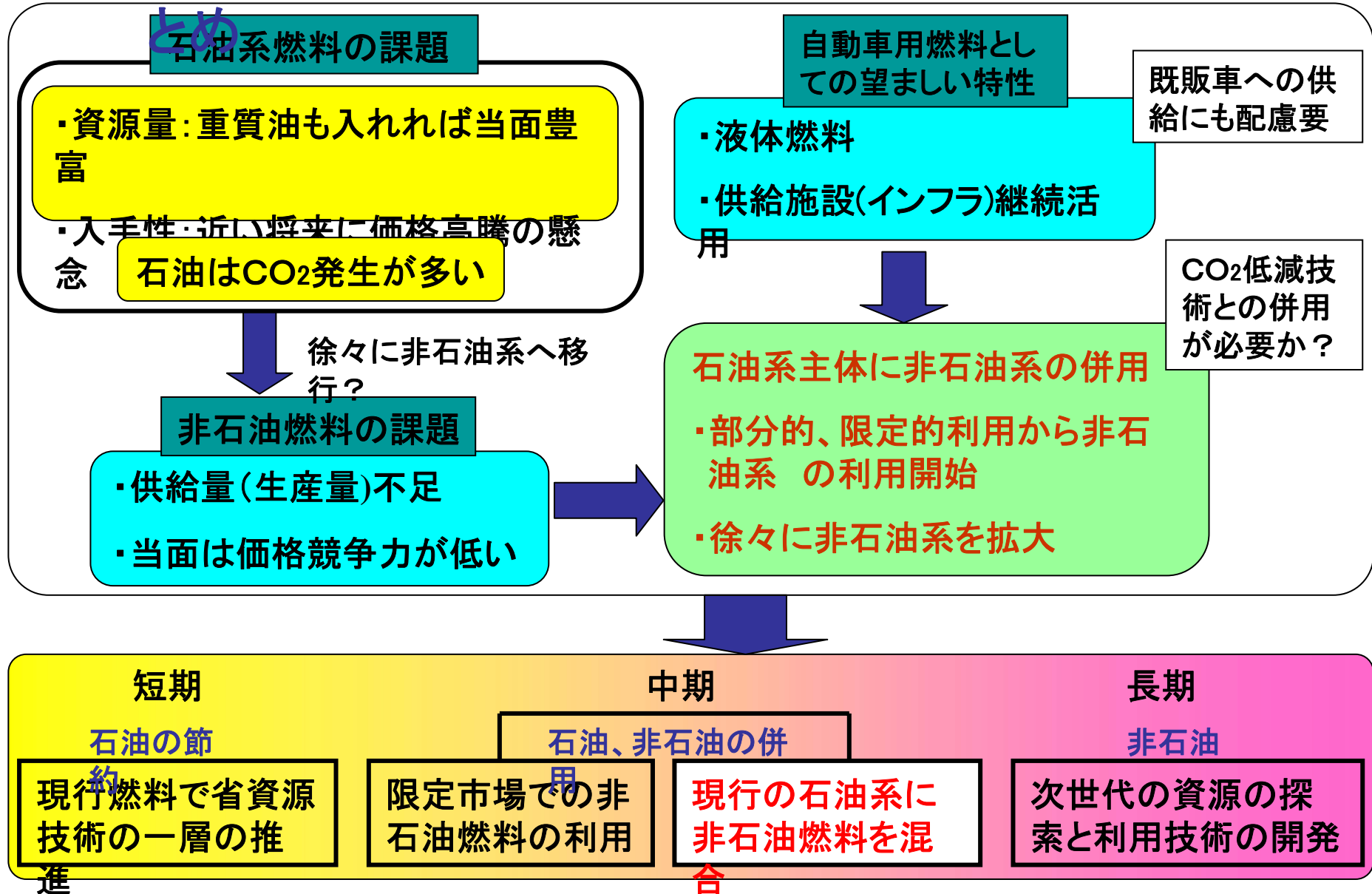


出典:天野 治(電中研)

図 道路輸送関係のエネルギー収支比

3.1 自動車用燃料の現状

(7) 自動車用将来燃料の方向---検討結果のまとめ



4.1本燃料シナリオの基本的考えかた

(2) 石油供給不安対策として日本として実施すべき項目

(b) 中短期的対策案の例

(1) 燃料消費低減技術の開発

- ・Hybrid 車、ディーゼル車など
- ・燃料効率の良い交通システムの開発

自動車業界としての行動

自動車業界として着手済み

政策との連携要。今後の課題

(2) 非石油系燃料の使用

- ・バイオ燃料、GTL等

・石油/エネルギー業界に期待

・エンジンとの関係について技術的検討実施中

(3) 日本全体のエネルギー利用効率向上

政策との連携要。今後の課題